

保全生態学特論（2単位）

担当者氏名 寺澤 和彦、中村 隆俊、白木 彩子

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

保全生態学は、世界的な共通目標となっている生物多様性の維持を実現するための学際領域として近年発展してきた。本講義では、保全生態学の基本的な考え方と研究事例を学び、現代社会における生物多様性の維持に関わる諸問題とその解決法等について理解・考察するための専門知識の修得を目標とする。あわせて生態学の研究に不可欠な多変量データの解析手法について最新の考え方と手法を修得することを目標とする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

生物多様性	絶滅危惧種の保全	北海道の希少種	森林生態系
森林施業	多変量解析	一般化線型モデル	

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	希少種保全理論 (第1～2週：白木)	希少種保全に関わる最新の理論について講述する。	予習として、講義内容に関する基礎的な知識は教科書等を参考に修得しておくこと。とくに輪読では、十分な予習と担当箇所のレジメの作成が必要である。
2	絶滅危惧種の保全研究 (第3～4週：白木)	絶滅危惧種の保全に関する英語論文や解説等を輪読する。	講義後のレポートは、授業で得た知識に加え、文献や資料で調べた内容を含めて考察し、作成・提出すること。
3	北海道の希少種保全研究 (第5週：白木)	北海道の希少種保全の現状について、実例を挙げて講述する。講義後にレポート提出を求める。	データ解析の復習では、各自の調査・実験データを用いて解析を行い、結果をとりまとめること。
4	森林の生物多様性総論 (第6～7週：寺澤)	森林の生物多様性について、総説論文を輪読して理解を深め、最近の研究動向を学ぶ。	
5	森林施業と生物多様性 (第8～9週：寺澤)	森林の施業が生物多様性に及ぼす影響に関して、具体的な研究事例を論文等から学び、課題を議論する。	
6	森林の生物多様性保全 (第10週：寺澤)	具体的な事例をもとに、今後の森林の生物多様性保全に向けた課題と解決策を議論する。	
7	生物群集の基礎的な統計解析法（第11-12週：中村）	統計ソフトRを用いた基礎的な統計手法（分散分析・多重比較検定など）について解説するとともに、生物群集データを用いた演習を行う。	
8	生物群集の多変量統計解析法（第13-14週：中村）	統計ソフトRを用いたGLM・GLMM解析手法について解説するとともに、生物群集データを用いた演習を行う。	
9	生物群集の表現方法（第15週：中村）	生態学分野における統計・解析結果の具体的な表現方法について、実際の論文を例に解説する。	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

レジメや資料は講義中に配布する。

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

生態学入門／日本生態学会（編）／東京化学同人（2012）
データ解析のための統計モデリング入門／久保拓弥／岩波書店（2012）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト）

レポート作成や輪読への取り組み状況、授業中の議論への参加態度で評価する。

◆オフィスアワー

水曜日14:30-16:20(寺澤)、月曜日12:10-13:00(中村)、授業後に教室で質問を受け付ける(白木)

◆その他受講上の注意事項

調査や学会等でやむを得ず欠席する場合は、事前に申し出ること。